

『花を訪ねて： ニリンソウ』

南高尾山稜山行報告（平成31年4月17日）

4月初旬にカタクリを見に六万騎山へ出かけようと考えていたが、上越国境付近は天候が悪く、おまけに雪が降ったりで4月中旬まで天候が安定しない。半分嫌気がさしている時、伊藤さんから「南高尾山稜：西山峠」へニリンソウを見に行かないかとお誘いがきたので、そちらに乗っかることにした。伊藤さんからビスターリの皆さんに4月17日に行くことで参加者を募ったところ、神田（玲）さんと3名で出掛けることになった。

当日は薄日が差す程度の“花曇り”の天候であったが、雨さえ降らなければ問題ない。高尾山口駅から麓までのバスの便の都合で、出発は少し遅く10時高尾山口駅集合である。私の場合乗換えのため若干時間に余裕をもって出掛けたが、明大前駅で京王線に乗り換える時に、「都営新宿線の信号トラブルで7～8分遅れが出ております」とのアナウンスがあった。こちらは来た特急に乗ればよいのであまり問題なく高尾山口駅へ着いた。ホーム下のコンクリート桁に巣作り中の燕が沢山飛び交っていた。まもなく神田さんも到着されたが、肝心の伊藤さんが来ない。気づくのが遅れたが、9時半頃メールで「電車が遅れていて乗れない。場合によってはタクシー利用にしましょう」との連絡が来ていた。ところが困ったことに駅前にはタクシーの姿は見えない。それはそうだが、ここからタクシーに乗る人はまず居ないだろう。運転手さんはおまんまの食い上げになってしまう。伊藤さんは結局バス発車の5～6分前に到着したので、胸をなでおろした次第。

国道20号線を走るバスは5分ほどで「山下バス停」に到着、10時半に歩き出す。同じ方向へは年配御夫婦1組と男性リーダーに率いられた年配女性5名と我々だけだった。入沢川沿いにゆっくりした坂道を登って行く。歩き始めるとすぐ、道の斜面にニリンソウが咲いている。小さな群落がそここにあり、私はあったあったと喜んでいたら、伊藤さんから上の方に行くともっと立派な群生地があるよと言われてしまった。夫婦2人はどんどん行ってしまったが、6人組は男性リーダーが花とかいろいろ教えているのだろう、大声で話しながら我々の後を歩いてくる。

10分程歩き「うかい鳥山」（いろり炭火焼き料理）への分岐を過ぎて、本格的な山道になる。時々小さな入沢川を渡り、ゆっくりした坂道を登る。周りにはニリンソウが咲き誇っているが、伊藤さんが言うには「どうも今年是不作の年だ」そうだ。あちこちに「個人の所有地につき入るな」の看板が立っている。確かに踏み込んでニリンソウを踏みつけるより、入ってくれない方がよい。この道は昔の“赤道”なのだろう。かなり上の方まで登ってきたら、ニリンソウの大きな群生地が現れた。確かにこれは凄い。花を見ていたら、“三輪”の花、“四輪”の花を見つけた。“四葉のクローバー”のようなものだろうか、「三輪では三角関係になってしまう」、「いや不倫草ですね」（これは“秀逸”）との“適切なる発言”があった。山の上の方がニリンソウの花が大きい。これは木の高さが低くなり、日当たりが良くなってきたためだろうか。山道の両脇には山野草として、ナガバノスミレサイシン、タチツボスミレ、ヒトリシズカ、ムラサキケマン、通称マムシ草：ミミガタテンナンショウ、まだ蕾のチゴユリ、ヤブレガサ、シャガ、などを見つけた。こんなに色々な花が咲いているのに、気にしないで行ってしまうのではもったいないよ。

西山峠の近くまで登って来たら、後の6人組は追い越していった。私が脚を引っ張ったが11時40分に西山峠(海拔:約450m)に到着した。ここは南高尾山稜にあたり、東京都と神奈川県の間になる。これまでの道には(個人所有のため)何もなかったが、ここに丸木を半分削いで作ったベンチがあったので、休憩・昼食を摂った。峠の向う側は急に落ちていて津久井湖の一部が望めた。丁度風の通り道になり少し寒いくらいだった。

12時10分出発、南高尾山稜を大垂水峠へ向かって歩く。暫く登りがあったが後は、山の斜面に付けられたほぼ平坦な道だった。ところどころ白い花びらが散っており、見上げると山櫻が咲いていた。有難いことに神奈川県はあちこちに木のベンチ・テーブルを作ってくれていた。12時40分、本日二番目の見所(勿論一番はニリンソウ)「見晴台」に到着、木のベンチがあり、10人位の人が休んでいた。下には津久井湖、津久井町が望める。

中沢山のすぐ下を過ぎ、13時05分に中沢峠(海拔:約485m)へ着いた。ここから南高尾山稜と別れて、細くて暗い道へ下る。直ぐにこの暗い道は終り、林道に出た。この林道は中沢川沿いに下って行く。こちらの道脇にもニリンソウは咲いているが株は少なかった。延々と下り13時55分「うかい鳥山」に着いた。山の中の広い敷地でなかなか良い雰囲気なので、忘年山行に利用できないだろうかと思ったが、日中の食事のみで宿泊設備はないそうである。

下まで下って来ると周りには花が溢れている。桃、八重桜、レンギョウ、ミツバツツジ、ボケ、マンサク、馬酔木、山吹、枝垂れ桃、三桮、「うかい鳥山」には西洋石楠花、水芭蕉 などなど。14時過ぎに山下バス停まで戻ってきた。伊藤さんが念の為バス時刻を調べようと100m先のバス停まで見に行ったが、12時の次は16時までないので、高尾山口駅まで歩くことになった(これは予定通り)。梅の木平には、当時高尾山の景観を破壊すると悪評判の立った圏央道のインターチェンジ、通称“スパゲッティ”がうねっている。やがて道の駅のような建物が見えてきたがこれは「高尾599ミュージアム」だった。高尾山の自然を紹介する設備で入館無料ですから、次回是非どうぞ。

14時45分、高尾山口駅に到着。15時03分発の特急に乗車し、神田さんは分倍河原で、伊藤さんと私は明大前駅で解散した。

南高尾山稜の谷あい咲く「ニリンソウ」は素晴らしかった。伊藤さんは筑波山の裏の方が一番だとおっしゃるが、私にはここも十二分に素晴らしいと思った。平日のせいかこの入沢川に入ってくる人は少なかったが、願わくは今後も踏み荒らされないことを祈る。

以上 陽田